

令和5年度愛国学園大学事業報告

1. 基本方針

本学における教育研究の質的向上を図り、更なる発展を目指すためには、学生の確保と財政的基盤等の安定を図ることが最も大きな課題である。

このため、学生充足率の向上を目指して、令和3年度から教育体制を主専攻・副専攻体制に改編し広報に努めてきたが、令和5年度は、高校生を対象とした「愛大オープンカレッジ」を始めとして、新たな取組も行うなど積極的に大学情報を発信し、学生定員の充足に資するよう様々な活動に取り組んだ。

2. 教育・研究等における重点事項

- (1) 学生定員の充足に向け、学生のニーズに対応する新たな体制として、「日本理解」、「心理・生活」、「地域共生」及び「ビジネス」の4専攻を置き、それぞれの専攻に所属して行う学修（主専攻）に加え、他の専攻（副専攻）の学修も行うことにより、深い専門性と幅広い教養を身に付けさせる体制に改編し、3年目となった。この中では、新たな分野の授業科目の開設に加え、地域共生専攻等を中心に地域との連携によるフィールドワークを授業の中で実践する活動を行い、教育の質の向上を目指して教育指導を展開した。新たな教育体制の推進とともに授業科目の実施状況について、確認点検を令和4年度末から開始しており、令和5年度においても引き続きその作業を実施した。

(2) 教員スタッフに関する重点事項

令和5年度末で教員2人が定年退職すること、更には年度末での辞職者が2名あったことから、欠員の補充に関して公募を行った。その結果、32人の応募があり、教員選考委員会による審査を行い、専任教員として3人を選考し、令和6年4月1日付けでの採用手続きを行った。なお、辞職者の内1名の公募は申出の時期の関係で、今後公募することとした。

(3) 教育・研究の推進

- ① 学業判定に関する規程、進級に関する基準及び卒業認定に関する基準、キャップ制、その他成績に関する取扱等に基づき丁寧な指導を実施し、履修成績の厳格な5段階評価、GPAによる成績評価等を適切に行った。
- ② 外国人留学生の退学防止を図るため、常にクラス担任等と出席状況を確認し、特段の指導の必要な者については、教授会に報告して大学全体で情報の共有を図り、休みがちな学生については自宅訪問なども実施し、在籍管理の強化を図った。その結果、退学者の減少につながった。
- ③ 昨年度に続き、全学漢字実力テスト（年2回）を実施し、学生に対して、日本語（国語）の運用能力、学修全般の理解力向上の取組みを行った。日本語及び英語の授業に関しては、学生の特性に応じた習熟度別クラス編成等により、指導の強化を図った。
- ④ 日本人学生、外国人留学生に対する就職支援の強化のため、専門家による就職相談の実施、面接の実習など各種セミナーを開催したほか、学生用就職活動マニュアルを活用した指導を行い、就職率の向上に努めた。
- ⑤ 学生が大学祭やその他の課外活動・学生企画行事等に積極的に参加して、より充実した大学生活が送れるよう指導を行った。行事等の実施に際しては、学生の自発性を尊重した指導を行うとともに、地元自治体や関係機関とも連携し、学生がその成果を発揮できる内容となるよう支援に努めた。このことにより、オープンキャンパスなど学内イベントへの学生の積極的参加・協力が得られた。

- ⑥ 教員の研究については、「人間文化研究紀要」への投稿を督励し、科学研究費助成事業等競争的資金の獲得についても奨励した。また、適正な研究活動の実施が図られるよう、必要な研究倫理について教授会等において周知した。
- ⑦ 悩みを抱える学生の支援として、外部の専門家に依頼してオンラインによるカウンセリングを行う体制を整備した。

3. 学生の募集活動に関する計画

学生の募集・確保を一体的に推進するための実施組織として、新たに「アドミッションセンター」を設置し、以下に掲げる取組等を行った。

- (1) 「年度別学生定員充足目標（令和2～6年度）」の目標達成に向けた取組として、大学案内の更新と志願の見込めそうな高等学校や日本語学校等への重点的配付、ホームページの更新、オープンキャンパスの開催、個別対応による特キャン（夜間開催を含む。）の開催、進学相談・施設見学の随時実施、内部校行事への参加、訪問目標学校の設定（100校）と担当者割振による確実な実施、複数回訪問、外部進学説明会への参加、受験産業による広報の実施、出願時の提出書類の改善等を行ったほか、Web出願を開始した。外国人留学生の出身国での直接選抜についても検討を行い、3月には再入学希望者についてWebによる面接選考を行った。
- (2) 高校生等への大学の認知度を向上させるため、教員全員による公開講座「愛大オープンカレッジ」（参加費無料、千葉県教育委員会、四街道市・同教育委員会の後援）を開催した（申込延26人、受講延15人）。
- (3) 令和5年度入学者の選抜から、新たに生涯学習推進への対応のための「社会人特別選抜」、国内の高等学校に在学する外国人生徒を対象とした「外国籍生徒等特別選抜」、多様な学生の入学を促進するため、「大学入学共通テスト利用選抜」を制度化し募集を行ったが、令和6年度入学者の募集においてもそれらの選抜を用意した結果、大学共通テスト利用選抜でも昨年度に続き志願者があるなど、前年度に比較して志願者が大幅に増加した。
- (4) 令和5年3月に千葉県立八千代西高等学校と高大連携事業に関する協定を締結し、高等学校教育の現状の意見交換、学長の特別講演、保護者の見学会等、相互の教育研究活動に係る連携、各種講座への高校生の受入れ等を実施する中で、本学に対する理解を深めることを推進した。
- (5) 撫子祭行事として、11月12日に部活動等で「カーレット」（卓上のカーリング）を実施している近隣の高等学校の生徒を招待して「撫子杯 2023年カーレット大会」を開催した（生徒・学生・教職員合計8チーム35人が参加）。
- (6) ウェルカムチューデント制度を11月に創設し、本学への入学予定者の出身校へのクラス担任予定者による訪問を行い、当該高等学校との連携を密にするとともに、当該生徒の状況把握に務め、入学後の学生指導に活かすこととし、学校訪問を行った。

4. 大学ガバナンスコードの見直し

私立大学として独自性を発揮し、社会的責任を全うするため、大学の自主的な行動規範として、令和4年11月に作成した本学版のガバナンスコードについては、社会の動向を踏まえて内容の確認を行った。

5. 大学機関別認証評価の受審

大学機関別認証評価については、(公財)日本高等教育評価機構による評価を受審したが、6評価基準・23基準項目中の22基準項目は基準を満たしていると評価されたが、1

基準項目（基準項目 2-1 学生の受入れ）だけが基準を満たしていないと評価され、全体の判定では、機構の定める評価基準に適合しているとは認められないとされた。

6. 施設・設備の整備計画等

- (1) 施設・設備の整備については、中期整備計画を基本とし、学生の学修環境の改善といった修繕整備の優先度を勘案しながら下記のとおり実施した。
 - ① 1号館ブラインドの交換、1号館学生トイレの非接触型水栓の導入等
 - ② 法令に則った1号館低濃度 PCB 廃棄物処理に必要な設備の改修
 - ③ 教育活動支援のための複写機の更新のためのリース契約、パソコン3台の更新等
- (2) このほか、環境美化活動として、7月28日及び11月2日に、学長以下教職員、学生の参加を得て、キャンパスクリーンデイ（全学一斉清掃）を実施した。また、附属四街道高等学校の行事に参加する形で、防災訓練を実施した。

7. 社会貢献の推進

- (1) 地域連携事業として、四街道市・四街道市教育委員会との共催により「市民大学講座（専門課程）」を令和5年10月14日から令和6年3月2日までの間に8講座を開講し、37名の市民が参加した（テーマ：DX時代の私たちの暮らしとビジネス）。
- (2) 地域連携及び高大連携等を一層推進し、大学の第3の機能の充実を目指して、社会貢献のための組織として社会貢献センターを新たに設置して活動を開始した。
- (3) 行政機関の政策策定等に関する審議会等に学識経験者として教員を派遣したほか、各種の四街道市の取組や関係団体にも教員を派遣した。
- (4) 撫子祭（大学祭）では、附属高等学校と連携を図り、資料展示や作品展示、音楽演奏等を実施した。また、四街道市国際交流協会、関係団体等の特別参加による展示等を行ったほか、同日開催の「四街道産業まつり」とも連携し、四街道市「食品ロス事業」での出店とパネル展示を行った。そのほか、四街道市教育委員会事業等へのボランティア参加等、学生も含めた地域貢献活動を積極的に実施した。
- (5) 大学開学25周年に当たり、地域と連携した25周年記念事業について、令和6年度にシンポジウムを開催することについて検討を進めた。
- (6) 大学施設の貸出について、教育機関等の要望も踏まえ、公益的事業等の実施のために施設の貸出を行った。